

【新聞制作学習・新聞機能学習】全校研究／小学1～3年生・国語科、小学4年生・社会
「伝えたい思いを育てよう」～自らの伝えたい思いを形にするための支援を考える。～

指定校1年次 南木曾町立南木曾小学校 新井 如騎

（１）本年度のNIE活動の概要

本校では自分も友だちも大切に作る子ども「えがお」、ねばり強く最後までやり抜く子ども「あせ」、ふるさとや自分自身に夢と誇りをもつ子ども「ゆめ」を学校教育目標とし、その実現のために、学年ごとにそれぞれの発達段階に合わせて、教育活動全体でその育みにつながる指導を行っている。

子どもたちは、自然に親しみ、生き物を探し、興味を持って粘り強く観察したり、図書やタブレットを活用しての調べ学習を通じて新たな知識に触れる喜びを感じたりすることができている。一方で、その観察や調べ学習で得た知見を他者に伝えようという意志が希薄であることや、伝えようと思ってもどのように表現してよいか分からず、戸惑いを見せる姿もみられた。これは、学習の結果を何のためにまとめるのかという目的意識をもてていなかったり、自分の考えや思いを表出する機会が十分になかったりしたことが原因ではないかと考えられる。

子どもたちが学習したことを他者に伝えるために言葉や文を推敲したり、友だちと共有しあったりする中で、自身の考えや思いを相手により分かりやすく伝えることができるようになることを願い、そのためには、どのような支援が有効なのかを探るために、本テーマを設定した。

（２）本年度のNIE活動の取り組み状況（４月時点）

本校は全校児童188人、8学級ある。本年度研究に関わった1～4年の学級ではどの学級も新聞を購読している児童はおよそ3分の1から4分の1程度であった。図書館で新聞を閲覧できる環境はあったが、利用している様子はほぼ見られなかった。そのため、児童にまず新聞に親しみを持ってもらうために、地域や本校自体が話題となった記事を教室や廊下に貼り出して紹介したり、4学年では朝の会等で、その日の新聞から簡単なクイズを出したりするなどの活動を始めることとした。

（３）NIE活動の狙い（育てたい力）

①全校研究テーマ

本校ではここ3年間、全校研究テーマを「主体的に学習や活動に取り組む子ども～子どもたちが、願いや課題をもち、主体的に学び合う授業はどうあったらよいか。～」と設定し、研究を続けている。

児童自身が「こうありたい」「これを知りたい」と願いをもつことが、児童自身が主体的に学ぶための第一歩だと考え、そんな願いをもつためにはどのような授業の形が望ましいのかを探ることを目的としている。

②NIE実践を通して育てたい力

本校の児童の実態として、受け身な姿勢が多いように感じている。学習で、聞かれたから答える、言われたからまとめるという感じを受け、自ら「これを伝えたいからまとめよう」とい

う意志を感じられないことが多かった。そのための全校研究テーマであるが、本年度は、「相手意識」という部分に焦点を当て、子どもたちが目的をもって学習に取り組んでいけるようにすることを重点にNIEの「新聞を作る」を基盤とし、研究を進めてきた。新聞作りや記事の構成の仕方などの工夫に着目し、各学年の実態に合わせて様々な教科の中で誰に何をどのように伝えるかを重視し、児童自らが学び、さらにそれを発信しようとすることで、得た情報を自分自身の知見とする姿を目指した。

（４）全校での取り組み

《身近な記事の紹介》

校長室前に、地域や本校の活動に関わることが紹介された新聞記事の切り抜きを、月ごとに分けて貼り出している。また、各学年に関わる記事については、該当学年でそれぞれ紹介したり、教室に貼り出したりしている。

（５）公開授業などの活動内容

単元の構想 2 学期授業実践

単元名 「自然災害からくらしを守る」（小学校第 4 学年・社会）

1. 単元設定の理由

①教材観

日本は「地震大国」と言われ、日本付近ではマグニチュード 6 程度の地震が全世界の 20% 発生している。子どもたちは南海トラフをはじめ大きな地震に見舞われる可能性がある。長野県でも過去に何度も大きな地震があり、大きな被害の出た地域がある。

南木曾町はその地形から、地震だけではなく、ほかの自然災害とも密接な関係にある。昔から南木曾町は、地元の人が「蛇抜け」と呼ぶ土砂災害(山津波)に襲われてきている。現在でも蛇抜沢、押出沢、蛇抜橋などの過去の災害を物語る地名が数多く残っており、沢筋には大転石が多く見られる。同じ沢に山津波が 40 年に 1 度ずつやってくるとも言われている。町内に土砂災害の記念碑や砂防ダムなどがあり、以前の災害の際には実際に避難を経験した児童もいる。

自然災害、特に地震と土石流はある意味、子どもたちに身近であり、さらに自然災害への理解と対策はこれから生きる子どもたちにとって欠かせないものである。また町で働く方々は災害が起きないように様々な想いをもって仕事をされているはずである。町に今ある設備や備えは過去の経験から生み出されたものが多い。

本単元では小単元の「地震からくらしを守る」と、「ひろげる」で取り上げられている「風水害からくらしを守る」を合わせて学習を進める。

②児童観

南木曾町に住む子どもたちは、これからも自然災害と向き合って生きていかなければいけない。しかし、ほとんどの子は南木曾町で土砂災害が多い事や、どのような災害があったかを具体的には知らなかった。また、南木曾町でどのような対策がされているか、家庭ではどのような備えがされているかを知らない子がほとんどである。

③指導観

今回の学習では主に地震と土砂災害について学習をする。

単元のまとめでは「自然災害について」、そして「自然災害からくらしを守る」ことについて保護者や友人に学習した内容を伝えることを目的として、新聞づくりを取り入れる。

新聞づくりでは特に「見出し」を吟味することを通して、最も伝えるべきことは何かについてそれぞれの意見をもたせる。

2. 単元の目標

自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々が、自然災害に対し、様々な備えをしているということを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えようとする態度を養う。

3. 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。	①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見出し、災害から人々を守る活動について考え表現している。	③自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や図表、文などにまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。	②自然災害が発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動を関連付けて、その働きを考えたり、学習したことを基に地域で起こりえる災害を想定し、日頃から必要な備えをしたりするなど、自分たちにできることを考えたり選択・判断したりして表現している。	②学習したことを基に地域で起こりえる災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを実践しようとしている。

4. 単元展開

	学習問題	○主な学習活動・内容	◆指導上の留意点
1	○わたしたちが住んでいる長野県や南木曾町ではどのような自然災害が起きてきたのでしょうか。	○「自然災害」とは何か、知っている事を発表する。 ○教科書からどんな自然災害があるのかを調べる。 ・地震災害・風水害・火山災害・雪害 ○わたしたちの住んでいる長野県や南木曾町ではどんな自然災害が多いかを資料集から探したり相談をしたりする。	◆自然災害には「地形」と「気候」が深く関わっていることに目を向けさせる。 ◆地震災害の多さ、南木曾町においては土砂災害の多さに着目させる。 ◆長野県の地図と教科書に載っている静岡県を図を対比して、場所や地形の違いに着目させる。
長野県では地震や風水害、雪害が起きることが多い。			
2	○自然災害によってわたしたちの暮らしはどうなるかを考え、学習問題をつくろう。	○自然災害時の写真、自然災害後の写真をみて、気付いたことを話し合う。 ・水が出ないと困る。 ・道路が使えないと買い物に行けない。 ・助けに来てくれる人は町の人かな？ ○出てきた疑問や意見から学習問題をつくる。	◆自然災害の後のくらしはどのように変わるのかについても考えさせる。 ◆避難所を開設する人、非常食をもってきてくれる人、写真には写っていない人たちの努力にも目を向けさせる。
地震災害や土砂災害からくらしを守るために、だれがどのようなことをしているのでしょうか。			
3	○過去の地震災害と地震災害がくらしに与える影響を知り、学校では地震に備えてどのような取り組みができるかを考えよう。	○地震について知っていることや地震の年表や地震後の写真などを見て気付いたことを発表する。 ○地震が起きた時にはどのような行動をするとういことを考える。 ・机の下に避難するよね。 ・避難場所という標識を見たことがあるよ。	◆昔から繰り返し地震が起きていることに気付かせる。 ◆地震が津波や火事、土砂崩れを引き起こす場合もあることに気付かせる。 ◆地震の際の原則的な避難の仕方などを確認する。

		○学校では地震に備えてどのようなことをしておけばよいか、またはしているかを考える。 ・防災ヘルメットがあるね。 ・避難経路図もあるよ。 ・避難訓練もしているね。 ・家ではどんなことをしているのかな？	◆「起きる前の準備」「起きた後の対策」という視点から考えさせる。 ◆家庭ではどのような取り組みをしているかについても考えさせて、家庭で調べようとする意欲をもたせる。
		学校では地震に備えて避難訓練を繰り返し行い、防災ヘルメットや避難経路が準備されている。	
4	○地震がおきた時にそなえて、家庭ではどのような取り組みをしているのでしょうか。	○家庭では地震が起きた時に備えてどのような取り組みをしているか、調べてきたことを発表し合う。 ・非常食を準備していたよ。 ・転倒防止のグッズを使っていたよ。 ○教科書や資料をつかって家庭で備えているとよいものを探す。 ・携帯ラジオがあるといいんだね。 ・トイレトペーパーもあると便利だね。	◆地震災害が起きた時には停電や断水などの影響が家庭にあることを想起させる。 ◆防災ヘルメット、非常持ち出し袋、非常食など実物を見せる。
		家庭では非常用バックや非常食、懐中電灯などを準備して地震に備えている。	
5	○学習してきた地震災害と土砂災害を比べて、土砂災害が暮らしにあたえる影響を知り、どのような取り組みをしているか考えよう。	○土砂災害について知っていること、今まで学習してきたことを発表する。 ○土砂災害の典型的な発生の仕方を知る。 ○地震災害と土砂災害を比べ土砂災害の特徴と、くらしを守る取り組みについて調べる。 ・家の近くの道路が通れなくなったことがあったよ。 ・土砂災害は雨の時に起こるね。 ・地震の時の取り組みと同じところもあるね。	◆地震との共通点、相違点を考えさせる。 ◆過去の災害の写真の提示していろいろな方の協力があることに気付かせる。 ◆土砂災害が起きにくい地域と南木曾町を比較して土砂災害が発生しやすい条件にも目を向けさせる。
		土砂災害でも地震からくらしを守る取り組みを活かすことができる。	
6	○町ではどのような対策をしているか予想しよう。	○静岡県浜松市ではどのような対策をしているか教科書で調べる。 ・防災倉庫があるね。 ・ハザードマップを作っているよ。	◆他の市の対策などを知らせることで、南木曾町の取り組みを予想しやすくする。

		○南木曾町ではどのような取り組みをしているか予想する。 ・ハザードマップを見たことがあるよ。	
		備蓄倉庫を準備したり、ハザードマップなどを作ったりして、万が一の災害に備えているのではないか。	
7 8	○南木曾町ではどのような取り組みをしているのでしょうか。	○町の方にインタビューをして町ではどのような取り組みをしているのかを聞く。 町では防災倉庫を備え、県と協力して砂防ダムを作ったり、調整池を整備したりするなど様々な対策に取り組んでいる。	◆教科書の学習を想起させ、別の市町村と対比をしながら話を聞けるようにする。
9	○新聞にまとめたいテーマを考えよう。	○町の方のお話を振り返りまとめる。 ○地震や土砂災害やくらしを守る取り組みについて分かったことや考えたことをノートに書き出し、学校の友人や保護者に最も伝えたい「4年生の新聞のテーマ」を考える。 「町で行われている防災対策」を中心に新聞記事を書こう。	◆新聞でしかできない事を明確にして、新聞で発信する意欲を高める。 ◆今までの学習から中心となるテーマを選ぶ。 ※テーマの例 地震災害、土砂災害、くらしを守る家での取り組み、くらしを守る町の取り組み、自分でもできる取り組み
10	○新聞の大見出しを考えよう。 本時	○決められたテーマの中で友人や保護者に一番伝えたいことを大見出しにする。 住民の人、町の人などの協力があって、くらしを守る取り組みが進められている。	◆キーワードを考えさせる事で、今までの学習内容を想起させる。
11	○わかりやすい新聞を書こう。	○新聞を作成する。	

5. 本時の展開（全 11 時間中第 10 時）

段階	学習活動	○発問 ・ 予想される児童の反応	・ 教師の支援 評価	時
導入	1 新聞からクイズを出題する。 2 既習内容を振り返る。	○今週の○○新聞の一面です。 どのような見出しだったでしょうか。 (選択肢を示す) ○新聞の「見出し」はどんな役割だったでしょうか。 ・ 人の目をひきつける。 ・ 内容を簡単に表している。	・新聞を作成していく上で新聞に親しみがもてるようにクイズ形式で出題する。 ・大見出しと小見出しの違いについて扱う。	8
【学習問題】新聞の大見出しを考えよう！				
【学習課題】大見出しに入れたいキーワードを考えよう。				
展開	3 新聞の大見出しに入れたいキーワードを考える。 4 キーワードを考えて発表する。 5 大見出しを考えて発表する。 6 新聞を書き出す。	○テーマの「町で行われている防災対策」について学んできたことを振り返り、入れたいキーワードを考えましょう。 ・「“努力”です。」 ・「“協力”です。役場の人だけではなく、町の人、長野県の人なども協力してくれているからです。」 ・「町の人同士が声をかけあっているので“助け合い”です。」 ・ 砂防ダム、調整池、ハザードマップなどの対策 ○見る人の目を引くような大見出しを考えて、短冊に書いて発表しましょう。 ○考えた大見出しを新聞に書き込み、記事を書き進める。	・学習を振り返れるようにノートを見返すよう促す。 ・今までの学習のポイントを明確にするためにキーワードとその理由を書かせる。 ・お互いの考えが見合えるように、黒板に短冊を貼り出す。	30
まとめ	7 本時の振り返り。	○友人の新聞を見て、分かったことや考えたことを発表しましょう。 ・○○さんが私と同じで、“協力”が大切と考えていました。 ・同じキーワードだけど見出しの書き方が違って面白かったです。 ・○○さんが“そなえ”というキーワードで大見出しを考えていてなるほどと思いました。	・様々な視点から学習のまとめができるように、友人の新聞を見る時間を確保する。 キーワードを入れて伝えたい思いを見出しにすることができる。 (発言、短冊、新聞)	7

（６）児童の反応

「新聞って楽しいもの」という気持ちを子どもたちが持っていなければ、将来的に自分から「新聞を読んでみたい、書きたい」につながらないので、まずは「楽しい」という思いをもってもらえるように授業を進めてきた。

キーワードをただ考えるだけではなく、その理由まで言わせるようにしたのは、理由を考えなければ、ただ人のまねで流されてしまい、単元を通して学習してきたことのまとめに繋がらないのではないかと考えたためだ。本時では、あまり活発に出されることはなかったが、ノートには書けていたので、それをもっと学級全体で出し合える雰囲気づくりを大事にしたい。

大見出し自体は、子どもたち自身とても楽しく書けていたように感じる。ユニークな考えがいくつも出てきたのが嬉しかった。

A 児は「油断するな南木曾町」と大見出しを作っていた。なぜか理由を尋ねると、「新聞を読む人に知らない人もいると思うから」と答えていた。相手意識をしっかり持っていると感じた。

（７）成果と課題

どの学級の公開も学習のまとめを「誰に」伝えたいかを意識して授業を行った。単元の初めに伝える相手をはっきりイメージしたことで、児童の中に自然と「お母さんは、このこと知らないから詳しく説明しよう」「1年生はこの言葉が難しいかもしれないから（似た意味の）別の言葉を使おう」というような推敲を行う姿が見られた。

今回研究グループの1～4学年それぞれで、信濃毎日新聞社読者センターの山岸さんに出前授業をお願いした。1、2学年では「新聞に親しむ」ことを目的とし、新聞にはどんなことが書かれているかというところから見出しと写真から内容の大体がつかめるといふ新聞の構成と、見出しと写真の組み合わせをカルタにして考えることで、写真の効果的な使い方についてご指導いただいた。子どもたちも、言葉にしづらい部分を絵や写真で補うことができることが分かり、写真に注釈をつけるといった工夫も見られた。3、4年生は5W1Hの項目ごとに分けてインタビューの内容を考えていくやり方をご指導いただき、「聞きたいことがない」「何を聞けばいいかわからない」という児童でもたくさんの質問文を考えることができた。このことをもとに、インタビューだけではなく、学習のまとめなどで、「このことについてどう思ったか」と項目立てをして考えるようにしたところ、全く何も書けない児童は減ったように感じられる。

以上のような成果がある一方で、各学年、新聞や発表原稿、物語など学習してきたことをそれぞれの形に残してきたが、それぞれのまとめの仕方が児童の実態に合っていたかが疑問として残った。多様な児童に、みんな一律に同じゴールを定めるのではなく、どの児童も達成し得る課題を設定する。その上で、「さらにできる人は」という条件をつけて、ステップアップの課題を提案するというような形にすれば、どの児童も達成感を得られるようになるかもしれない。

来年度の研究では、児童が達成感を得られる課題設定と支援の方向を研究し、相手を意識した情報発信の力を身に付けていけるようにしていければよいのではないだろうか。